北陸新幹線開業後の五箇山地域における観光客の動向および大学生の視点から見た五箇山の新しい魅力に関する一考察

A Study on Tourism Trends in Gokayama Area after the Opening of Hokuriku Shinkansen and New Tourist Attraction of Gokayama Area from the perspective of University Students

佐藤悦夫、今井雪乃、佐野里穂、野村彩乃、松木峰音、宮崎春奈、森本絵里香
SATO Etsuo、IMAI Yukino, SANO Riho,NOMURA Ayano, MATSUKI Nene,
MIYAZAKI Haruna, MORIMOTO Erika

2015 年 10 月 31 日、11 月 1 日に五箇山で行った観光客の動向調査によると、北陸新幹線開業効果もあり、関東地域からの観光客が増加していた。また、五箇山を訪問した観光客の中で、新幹線利用者の降車駅は、富山駅や金沢駅が多くそこからレンタカー借りて五箇山まで移動あるいはツアーバスに乗って五箇山まで移動した観光客が多かった。佐藤ゼミ所属の学生たちは、20 代の観光客を誘客するための手段として、「古さと新しさの融合」、「小さくておしゃれなもの」、「インスタグラムなどの SNS にすぐに投稿できるもの」をキーワードに議論を重ねた。その結果、五箇山らしいスイーツが必要であるとの結論に達した。

キーワード： 世界遺産、五箇山、北陸新幹線

１、はじめに

2015 年 3 月に北陸新幹線が開業し北陸を訪れる観光客は増加した。朝日新聞によると、3 月 14 日から 8 月 13 日の間に金沢城公園を訪れた観光客数は約 122 万人（前年比 1.8 倍）、兼六園約 147 万人（前年比 1.4 倍）であった。一方富山県における 4 月から 8 月の観光客は、黒部峡谷鉄道約 42 万人（前年比 1.1 倍）、五箇山約 42 万人（前年比 1.3 倍）であった（朝日新聞　2015 年 12 月 19 日）。また、2015 年 10 月から 12 月の JR グループと北陸 3 県が観光客誘致のために展開した「北陸デスティネーションキャンペーン（DC）」では、兼六園 746,314 人（前年同期比 68.8%増、以下同様）、和倉温泉宿泊者数 255,799 人（20.5%増）、永平寺 171,300 人（28.1%増）、黒部峡谷鉄道 269,003 人（24.2%増）、五箇山 123,308 人（52.5%増）であり確実に北陸新幹線効果出ていると思われる（朝日新聞　2016 年 2 月 11 日）。

本稿の目的は、①新幹線開業後に五箇山を訪れる観光客の行動パターンを対面式アンケート調査により把握すること、②観光地にとって重要な要素の一つである、「食」、「土産物」を調査するために、五箇山で営業しているレストラン、お土産物店などに聞き取り調査を行うこと、③調査結果を踏まえ、若者の視点から新しい五箇山の魅力を創出することの 3 点である。

五箇山における観光調査に関しては佐藤の研究があるが、本稿でも過去の研究成果と比較しながら検討する（佐藤　2006、2009、2010、2011、2012a、2012b、2014、2015）。

２、2015 年度の五箇山における観光客の動向調査の

2-1　全体的傾向

（１）回答者の属性

2015 年 10 月 31 日（土）と 11 月 1 日（日）に五箇山地域の菅沼集落、相倉集落で観光客に対する対面式のアンケート調査を実施した。対面式アンケートの回答者総数は 318 人（菅沼集落 161 人、相倉集落 157 人）であった（表１）。まず、回答者の属性を見てみると、性別では、男性 44.3%（N=141）、女性 55.7%（N=177）であった（表２）。また、回答者の年齢構成は、50 歳代が 24.5%（N=78）と最も多く、次に 60 歳代 21.1%（N=67）、40 歳代 20.8%（N=66）と続く。20 歳代は 8.8%（N=28）と少ない（表３）。

表 1：調査地別の回答数

	人	%
菅沼	161	50.6%
相倉	157	49.4%
合計	318	100.0%

表 2：回答者の男女比

	人	%
男	141	44.3%
女	177	55.7%
合計	318	100.0%

表 3：回答者の年齢層

	人	%
20歳未満	8	2.5%
20歳代	28	8.8%
30歳代	48	15.1%
40歳代	66	20.8%
50歳代	78	24.5%
60歳代	67	21.1%
70歳代以上	21	6.6%
無記入	2	0.6%
合計	318	100.0%

（２）回答者の居住地（問１）

観光客の居住地に関しては、富山県内 23.3%（N=74）、富山県外 76.4%（N=243）、外国 0.3%（N=1）で、県外からの観光客が圧倒的に多かった（表 5）。県外からの観光客を都道府県別にみると、東京都が最も多く 45 人、以下石川県 34 人、愛知県 18 人と続く（表 4）。地域別に見ると北陸を除いては、関東地域が 25.8%（N=82）と最も多く、その次に関西 12.3%（N=39）、中部 11.0%（N=35）と続く（表 4）。

2010 年の調査では、サンプル数 464 人中、中部地域 27.4%（N=127）と最も多く、次に関西 14.7%（N=68）、関東 10.6%（N=49）であった（佐藤　2011）。2015 年は、北陸新幹線開業の効果があり、関東地域からの観光客が増加したと考えられる。

（３）同伴者ならびに同伴者数の状況（問２、問３）

同伴者に関しては、「家族・親戚と」と回答した人は 57.9%（N=184）でもっとも多く、次に「友人と」と回答した人は 22.0%（N=70）であった。その他、「地域などの団体で」が 6.6%（N=21）、「自分一人で」が 5.7%（N=18）であった（表 6）。同伴者数に関しては、「５人以下」が 76.1%

表 4：都道府県別居住地

地域	都道府県	人	地域ごとの割合
北陸	富山県	74	36.8%
	石川県	34	
	福井県	9	
	小計	117	
関東	東京都	45	25.8%
	神奈川県	17	
	埼玉県	7	
	栃木県	7	
	千葉県	3	
	群馬県	3	
	小計	82	
関西	大阪府	17	12.3%
	滋賀県	8	
	京都府	5	
	兵庫県	4	
	奈良県	3	
	三重県	1	
	和歌山県	1	
	小計	39	
中部	愛知県	18	11.0%
	岐阜県	11	
	静岡県	6	
	小計	35	
甲信越	新潟県	15	7.2%
	長野県	8	
	小計	23	
東北	宮城県	4	2.8%
	福島県	2	
	秋田県	2	
	岩手県	1	
	小計	9	
中国	広島県	2	1.6%
	岡山県	2	
	島根県	1	
	小計	5	
九州	佐賀県	2	0.9%
	宮崎県	1	
	小計	3	
四国	徳島県	1	0.6%
	香川県	1	
	小計	2	
外国	韓国	1	0.9%
無記入		2	
	小計	3	
合計		318	100.0%

表 5：居住地

	人	%
富山県内	74	23.3%
県外	243	76.4%
外国	1	0.3%
合計	318	100.0%

表 6：同伴者

同伴者	人	%
自分ひとりで	18	5.7%
家族・親戚と	184	57.9%
友人と	70	22.0%
学校のグループで	5	1.6%
職場のグループで	10	3.1%
地域などの団体で	21	6.6%
その他	8	2.5%
無記入	2	0.6%
合計	318	100.0%

表 7：同伴者の人数

人数	人	%
1～5	242	76.1%
6～10	34	10.7%
11～15	20	6.3%
16～20	6	1.9%
21～25	0	0.0%
25～30	5	1.6%
31～35	2	0.6%
36～40	1	0.3%
41～	1	0.3%
無記入	7	2.2%
合計	318	100.0%

（N=242）で最も多かった。また、21 人以上のグループは、2.8%（N=9）であり、大型観光バスを利用した団体旅行客は全体としては多くない（表 7）。

（４）訪問回数（問４）

表 8：訪問回数

訪れた回数	人	%
はじめて	190	59.7%
2回目	51	16.0%
3回目	36	11.3%
4回目以上	39	12.3%
無記入	2	0.6%
合計	318	100.0%

訪問回数に関しては、「はじめて」が 59.7%（N=190）で最も多く、次いで「2 回目」が 16.0%（N=51）である（表 8）。また、「４回以上」が 12.3%（N=39）である。2 回以上のリピーターが全体の 39.6%を占め、2010 年の 38.8%とほぼ同様である（佐藤　2011）

（５）交通手段（問５、問６）

表 9：新幹線の利用状況

新幹線を利用したか	人	%	降りた駅	人	%
はい	61	19.2%	金沢駅	21	34.4%
			新高岡駅	7	11.5%
			富山駅	27	44.3%
			黒部宇奈月温泉駅	1	1.6%
			無記入	5	8.2%
いいえ	256	80.5%			
無記入	1	0.3%			
合計	318	100.0%			

表 10：交通手段

交通手段	人	%
自家用車	190	59.7%
世界遺産バス	15	4.7%
高速バス	6	1.9%
観光バス	54	17.0%
レンタカー	39	12.3%
その他	10	3.1%
無記入	4	1.3%
合計	318	100.0%

近くの都市までの新幹線を利用に関しては、19.2%（N=61）が利用しており、利用した駅は富山駅 27 人、金沢駅 21 人であった（表 9）。また、五箇山を訪れる交通手段としては、自家用車が 59.7%（N=190）と多いが、レンタカーの利用者も 12.3%（N=39）であった。レンタカーは富山で借りた人 11 人（東京９、大阪１、長野１）、金沢で借りた人８人（東京５、佐賀２、岩手１）であった。地元の人の話によると、最近はレンタカーで五箇山を訪れる観光客が多いとのことだったので、今後も新幹線とレンタカーを利用してくる観光客が多くなると思われる。また、世界遺産バス（高岡-白川郷）の利用者には、若い観光客や外国人が見られた。

（６）五箇山での滞在時間（問７）

五箇山地域での滞在時間は、「１時間程度」が 50.3%（N=160）と最も多く、次いで「2 時間程度」24.2%（N=77）、「３～４時間程度」5.7%（N=18）となっている。五箇山地域で宿泊を予定している観光客は、３人と少ない。

表 11：滞在時間

滞在時間	人	%
30分程度	56	17.6%
1時間程度	160	50.3%
2時間程度	77	24.2%
3～4時間程度(半日)	18	5.7%
1日	1	0.3%
1以上(宿泊)	3	0.9%
無記入	3	0.9%
合計	318	100.0%

2010 年の調査では、五箇山地域での滞在時間は、「１時間程度」が 50.0%（N=232）と最も多く、次いで「2 時間程度」26.5%（N=123)、「３～４時間程度」9.1%（N=42）であり（佐藤　2011)、2015 年の調査とほとんど変わらない。

（７）五箇山での立ち寄り先（問８）

アンケートサンプル数 318 人の中で、相倉集落を訪問した観光客は 69.2%（N=220)、一方菅沼集落を訪問した観光客は 64.5%（N=205）であった。しかし、菅沼集落を訪れた 161 人の中で相倉を訪れた（訪れる予定）の人は 63 人（39.1%)、一方相倉集落を訪れた 157 人の中で菅沼集落を訪れた（訪れる予定）の人は 44 人（28.0%）であり、両方の合掌集落を訪れる割合は必ずしも大きくない。合掌集落以外では、道の駅上平 9.7%（N=31）が多く、次に道の駅たいら 8.2%（N=26）である。この傾向は、2010 年と比較して大きな変化はない（佐藤　2011)。

表 12：五箇山での立ち寄り先（複数回答可）

立ち寄り先(複数回答可)	人	%
相倉集落	220	69.2%
菅沼集落	205	64.5%
五箇山総合案内所	9	2.8%
道の駅上平(ささら館)	31	9.7%
岩瀬家	6	1.9%
村上家	15	4.7%
道の駅たいら(五箇山和紙の里)	26	8.2%
その他	11	3.5%

（８）五箇山での消費額（問９）

表 13：飲食

	人	%
飲食する	176	55.3%
飲食しない	122	38.4%
無記入	20	6.3%
合計	318	100.0%

表 14：飲食の金額

金額	人	%
1～1000円	91	51.7%
1001～2000円	44	25.0%
2001～3000円	7	4.0%
3001～4000円	0	0.0%
4001～5000円	1	0.6%
無記入	33	18.8%
合計	176	100.0%

表 15：買い物

	人	%
買い物する	141	44.3%
買い物しない	138	43.4%
無記入	39	12.3%
合計	318	100.0%

表 16：買い物の金額

金額	人	%
1～1000円	68	48.2%
1001～2000円	29	20.6%
2001～3000円	11	7.8%
3001～4000円	0	0.0%
4001～5000円	2	1.4%
無記入	31	22.0%
合計	141	100.0%

五箇山で「飲食をする人」は、55.3%（N=176）で、使用する金額は 1000 円以下が 51.7%（N=91）と最も多かった。また、「買い物する人」は、44.3%（N=141）で、金額は飲食と同様に 1000 以下が 48.2%（N=68）と最も多かった（表 13～表 16)。

2010 年の調査では、五箇山で「飲食する人」は、46.8%（N=217）、金額としては「1000 円以上 2000 円未満」が 48.4%（N=105）で最も多く、次いで「1000 円未満」が 20.3%（N=44）であった。また、「お土産を購入する人」は、49.6%（N=230）で、金額は「1000 円以上 2000 円未満」が 41.7%（N=96）で最も多く、ついで「3000 円以上」が 17.0%（N=39）、「2000 円以上 3000 円未満」が 15.7%（N=36）であった（佐藤　2011）。

（９）旅行日程（問 12）

表 17：旅行日程

	人	%
日帰り	145	45.6%
1泊2日	103	32.4%
2泊3日	50	15.7%
3泊4日	13	4.1%
4泊以上	6	1.9%
無記入	1	0.3%
合計	318	100.0%

旅行日程では、「日帰り」が 45.6%（N=145）と最も多く、以下「１泊２日」32.4%（N=103）、「２泊３日」15.7%（N=50）と続く（表 17）。

2010 年の調査では、「日帰り」64.7%（N=300）、「1 泊 2 日」が 23.6%（N=109）、「2 泊 3 日」が 5.4%（N=25）であった（佐藤　2011）。今回の調査では、「２泊３日」の旅行日程が大きく増加していることがわかった。

（10）訪問動機、満足度（問 14、問 15）

表 18：訪問動機（複数回答可）

訪問動機（複数回答可）	人	%
保養、休養のため	66	20.8%
おいしものを食べるため	36	11.3%
知識や教養を深めるため	32	10.1%
家族や友達との親睦を深めるため	40	12.6%
現地の生活にふれたくて	9	2.8%
世界遺産を見るため	117	36.8%
その他	29	9.1%

表 19：満足度

満足度	人	%
大変満足	158	49.7%
やや満足	151	47.5%
やや不満	4	1.3%
不満	0	0.0%
無記入	5	1.6%
合計	318	100.0%

訪問動機は、「世界遺産を見るため」が 36.8%（N=117）と最も多く、次に「保養、休養のため」20.8%（N=66）、「家族や友達と親睦を深めるため」12.6%（N=40）と続く（表 18）。「その他」の中には、「富山マラソン」関係の回答や「紅葉をみるため」等の回答が多かった。

満足度調査では、ほとんどの訪問客が満足している。自由記述に記載された意見では、「きれいな紅葉と集落のコントラストが素晴らしかった。五箇山のお話も伺えたので楽しかったです」等の自然と合掌集落の景観を評価する回答が多かったが、一方不満点としては、「おいしいご飯屋さんがない」、「集落入口で入場料をとり、資料館等を無料で見ることができるようにしては。案内人（ボランティア）を置く」、「案内板が少ない。ベンチ（休む所）が少ない」、「浴衣が干してあるのが少し気になりました」等の回答もあった。

興味深い回答としては、「外国人が少なく静か」という意見があった。これは、外国人で賑わう高山や白川郷と比較して答えたものと考えられる。五箇山で呼ぶべき外国人観光客は団体観光客ではなく、個人客であり、その外国人個人客が楽しめる仕組みを作る必要がある。

2-2 関東地域の観光客の特徴

（１）関東地域の観光客の特徴

表 20：関東地域の観光客の属性

	関東		全体
	人	%	%
調査地毎のサンプル数			
菅沼	49	59.8%	50.6%
相倉	33	40.2%	49.4%
合計	82	100.0%	100.0%
性別			
男性	39	47.6%	44.3%
女性	43	52.4%	55.7%
合計	82	100.0%	100.0%
年齢			
20歳未満	4	4.9%	2.5%
21歳代	6	7.3%	8.8%
30歳代	17	20.7%	15.1%
40歳代	21	25.6%	20.8%
50歳代	20	24.4%	24.5%
60歳代	11	13.4%	21.1%
70歳代以上	3	3.7%	6.6%
無記入	0	0.0%	0.6%
合計	82	100.0%	100.0%

北陸新幹線開業により関東からの観光客が増加しているので、関東地域の観光客 82 人を抽出し全体の傾向と比較した。観光客の年齢に関しては、全体の傾向と大きな差はない（表 20)。

同伴者に関しても「家族、親戚と」や「友人」が多い（表 21)。訪問回数は､「はじめて」の割合が全体の傾向より大きい。

五箇山の近くの都市までの北陸新幹線の利用した観光客は､61.0%(N=50)であり、五箇山までの交通手段としてはレンタカーの利用が 24.4%（N=20）と多い。

滞在時間は、２時間程度が 35.4%（N=29）比較的多く、また旅行日程も「１泊２日」が 46.3%（N=38）と多く、次に「2 泊 3 日」が 36.6%（N=30）と続く。

（２）北陸新幹線利用者の行動パターン

関東地域の観光客で北陸まで北陸新幹線を利用した 50 人の行動パターンを次に分析する。

①降車駅、五箇山までのアクセス手段

降車駅は富山駅 24 人、金沢駅 18 人、黒部宇奈月温泉駅１人、新高岡駅３人、無記入４人であった。

富山駅で降りた 24 人の内 9 人は富山市でレンタカーを借りて、4 人は世界遺産バスで、残りはツアーバス等で五箇山に移動している。金沢で降りた 18 人の内 5 人はレンタカーを借りて、８人はツアーバスで、他は友達の車やタクシー等で移動していた。黒部宇奈月温泉駅の１人はレンタカーを利用し、新高岡駅で降りた人３人中１人はレンタカー、２人は世界遺産バスを利用していた。

②旅行日程、宿泊先

富山駅で降りた 24 人の中で、「１泊２日」の日程で旅行している人は 13 人で、宿泊先は富山市が９人、金沢や和倉温泉が２人であった（無記入２人)。「２泊３日」の日程で旅行している人は８人で、1 泊目富山市２泊目金沢市（富山市－金沢市、以下同様）２人、上市町－上市町２人、宇奈月温泉－和倉温泉２人、富山市－福井市１人、金沢市－金沢市１人であった。

金沢駅で降りた 18 人の中で「１泊２日」の日程で旅行している人は 10 人で、宿泊先は和倉温

表 21：関東地域の観光客の特徴

	関東		全体
	人	%	%
同伴者			
自分ひとりで	8	9.8%	5.7%
家族・親戚と	42	51.2%	57.9%
友人と	19	23.2%	22.0%
学校のグループで	1	1.2%	1.6%
職場のグループで	7	8.5%	3.1%
地域などの団体で	0	0.0%	6.6%
その他	4	4.9%	2.5%
無記入	1	1.2%	0.6%
合計	82	100.0%	100.0%
訪問回数			
はじめて	68	82.9%	59.7%
2回目	10	12.2%	16.0%
3回目	1	1.2%	11.3%
4回目以上	3	3.7%	12.3%
無記入	0	0.0%	0.6%
合計	82	100.0%	100.0%
新幹線の利用			
はい	50	61.0%	19.2%
いいえ	32	39.0%	80.5%
未記入	0	0.0%	0.3%
合計	82	100.0%	100.0%
交通手段			
自家用車	27	32.9%	59.7%
世界遺産バス	10	12.2%	4.7%
高速バス	2	2.4%	1.9%
観光バス	15	18.3%	17.0%
レンタカー	20	24.4%	12.3%
その他	5	6.1%	3.1%
無記入	3	3.7%	1.3%
合計	82	100.0%	100.0%
滞在時間			
30分程度	8	9.8%	17.6%
1時間程度	38	46.3%	50.3%
2時間程度	29	35.4%	24.2%
3～4時間程度(半日)	5	6.1%	5.7%
1日	1	1.2%	0.3%
1以上(宿泊)	0	0.0%	0.9%
無記入	1	1.2%	0.9%
合計	82	100.0%	100.0%
旅行日程			
日帰り	4	4.9%	45.6%
1泊2日	38	46.3%	32.4%
2泊3日	30	36.6%	15.7%
3泊4日	8	9.8%	4.1%
4泊以上	2	2.4%	1.9%
無記入	0	0.0%	0.3%
合計	82	100.0%	100.0%

泉８人、金沢市２人であった。また、「２泊３日」の日程で旅行している人は８人で、金沢－富山１人、金沢－金沢２人、氷見－芦原温泉１人、金沢市－福井市１人、福井－宇奈月１人、金沢市－白川郷２人であった。

３、五箇山の課題と若者視点から見た五箇山の新しい魅力の創出

3-1　五箇山の課題

世界遺産に登録されている五箇山地域は、ネームバリューもあり、年間 70 万人から 80 万人の観光客が訪れる富山県の重要な観光地である。しかし、高山市のように若い人にはまだ魅力的でないようである。2015 年の６月に高山での調査も行ったので高山と比較しながら五箇山の３つの課題を考えたい。

①若者をターゲットとした食事、スイーツ、お土産物を作る。また、若者に対する五箇山の魅力を発信する方法を考える。

五箇山という歴史ある空間で、五平餅や五箇山団子のような伝統的な軽食を食べる以外に、現代的な五箇山らしいスイーツ（あるいは料理）を食べることができるのであれば、まさに「古さと新しさの融合したおしゃれな空間」を演出できる。従ってインスタグラム、フェイスブック、ツイッターなどで、写真を送りたくなるような空間やモノが必要である。

②滞在時間が短く、また訪問箇所も限られているので、五箇山全体に観光客が回遊できる仕組みを考える。特に若者が五箇山地域全体を訪問し、長時間（あるいは数日間）滞在できる仕組みが必要で

ある。

③写真を撮影して帰るだけでなく、五箇山の歴史などを学びたいという若者に対して　地元の人と交流したり、語り部の話を聞けたりする施設が必要である。

3-2　課題解決のための対策

（１）課題①に関する対策

五箇山の①の課題を解決するために、五箇山らしいスイーツとその容器を作ることを提案する。高山市の古い街並み地区の観光客を観察していると、高山の「コロッケ」、「ソフトクリーム」、「肉まん」、「牛肉の寿司」などを食べながら歩いている若い観光客が多く、それが SNS で発信され（口コミ）、若い人たちの魅力となっている。そこで五箇山でも食べ歩きできるようなスイーツ、あるいは喫茶店などで休憩しながら食べられるスイーツが必要と思われる。

ターゲット：現時点では少数の観光客であるが、今後 PR 次第では誘客が期待できる 20 歳代の女性。

コンセプト：五箇山らしい素材を使ったヘルシーなスイーツ。「歴史的な空間+現代的でおしゃれなスイーツ」。容器も五箇山らしい和紙で作ったプレートで提供。観光客でにぎわう高山の煩雑さとは異なり、自然と歴史空間でゆっくりと過ごすときに食べられるスイーツ。

（２）課題②に関する対策

お土産ものとしても使える和紙で作ったイラストマップなどや、旅の記録を書けるようなガイドブックなども考えられる。2014 年に佐藤ゼミの３年生が『世界遺産　五箇山　旅の記憶』というガイドブックを作成した。今後は、単なるガイドブックではなく、学術的成果や五箇山の歴史、習慣等などを記載した『世界遺産の歩き方（五箇山編）』（仮称）などの本格的な出版物も必要である。

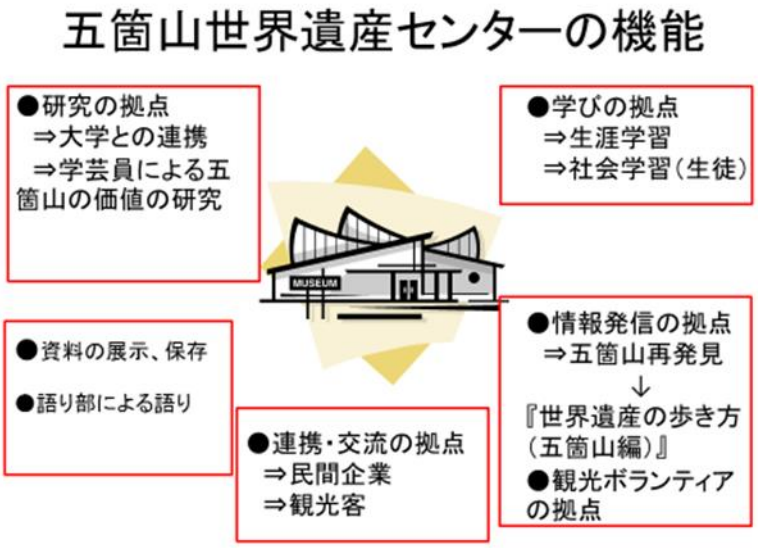

図１：五箇山世界遺産センターの概念図

（３）課題③に関する対策

世界遺産の平泉には「平泉文化遺産センター」、石見銀山には「石見銀山世界遺産センター」、熊野古道には「和歌山世界遺産センター」のような博物館機能をもった施設があり情報発信を行っている。

五箇山では、五箇山の文化を一カ所に集約し、発信するような施設がない。仮に「五箇山世界遺産センター（仮称）」のような施設ができれば、研究、展示、情報の収

集、教育の場として様々な活動ができる（図１）。合掌集落の中には新しい建造物は建設できないので「合掌の里」が施設建設の候補として挙げられる。また、このような施設があれば、他地域との連携の拠点ともなり、観光学部に所属する大学生を集めたセミナーの開催や高校生と大学生との交流など、さまざまな企画が考えられる。また、五箇山遺産センターを拠点に五箇山地域全体に観光客を分散させ、五箇山地域全体を博物館にするようなエコミュージアムの構想も可能となる。

４、まとめ

本稿では、北陸新幹線開業後の五箇山を訪れる観光客の動向調査、五箇山で営業しているレストラン、お土産屋のヒアリング調査を行い、五箇山の３つの課題ならびにその対策を考察した。佐藤ゼミ３年生の学生たちは、五箇山の観光客の年齢層は 40 歳以上の人が多いのであるが、20 代の若い女性を誘客するために「古さと新しさの融合」、「小さくておしゃれなもの」、「インスタグラムなどの SNS にすぐに投稿できるもの」をキーワードに議論を重ねた。また、「五箇山世界遺産センター」の創設には、南砺市や富山県の協力が不可欠であるが、世界遺産五箇山が今後とも質の高い観光地であるためには必要な施設である。

参考文献

佐藤悦夫

2006 「五箇山地域の観光に関する一考察」『富山国際大学　国際教養学部紀要』Vol. 2 , PP.81-94、富山国際大学

2009 「富山県五箇山地域の観光客動向に関する一考察」『富山国際大学　現代社会学部紀要』第１巻、PP.161-190、富山国際大学

2010 「富山県五箇山地域の観光客動向に関する一考察：2009 年調査を中心に」『富山国際大学　現代社会学部紀要』第 2 巻、PP.147-178、富山国際大学

2011 「富山県五箇山地域の観光客動向に関する一考察：2010 年調査を中心に」『富山国際大学　現代社会学部紀要』第 3 巻、PP.103-137、富山国際大学

2012a 「世界遺産・五箇山の観光の現状と課題」、中島恭一・田広林監修、東アジア交流プロジェクト編『東アジアの交流と地域の発展』、pp.237-257、桂書房

2012b「世界遺産・五箇山地域の観光資源の保全と活用に関する考察」『第 23 回全国学術研究大会　発表要旨』pp.17-20

2014 「観光資源としての世界遺産～平泉と五箇山の比較」『富山国際大学現代社会学部紀要』第６巻、pp.75-86　富山国際大学

2015 「外国人の見た五箇山と白川郷～観光地としての魅力の検討～」『富山国際大学現代社会学部紀要』第７巻　pp.63-62　富山国際大学